

開山の一〇〇年の歴史を誇る天童の寺々・鈴立岩を誇り、きれいにゆきさんじやくしようじ、氏家茶條住持。数多い寺委中の一つ・網代及び順礼札は、はるる二、昭和二十二年に開成民俗文化財に指定された。室町時代末期、西国三十三所（近畿地方と岐阜県の33箇所）や最上三十三所の観音堂巡礼を無事に果たした者が感謝の気持ち

程度、札の表裏一部に墨を刷り、札を刻み、都に奉納の御意や年日、奉納名が記されて、最も古のは一五九二（延宝四年）年順礼札で、他は一五〇一（文龜元）

7枚の永祿六年の住人西国三十三所の順を終え、若松寺に納めたもの。これにより氏家住持は「靈應院」は仏拝み心を清めた、新たな

市（の）かゝる世に生まれ
ある身のあかぬかに、やま
と思へ頼め 十士一戸と
類似し通し 西國十三所
への願ひ通し 苦難を受け
たこまれるといふ。願ひ札
の年には（現 26 天永）
中に至都（もく 6 馬相馬
）近所の住人が年三十三
願ひ所を三十三度これに
奉納したものである。これに
ついて家住職は、若松観音
ほろ名高い縁起荊松様と
めた高い縁起荊松様と
さらに色の若松れば叶か
なう一度縁は一度もた
なう一度といふ言ひもある。
縁縁を求める参拝者達にも
絶えず、氏住によつて、あ
るの物語は荊松様によつて
する。心算めて参拝人
の大切かたにすぎません縁
の大いさにいって再確認して
「はい」と答へ。

類。観音すなわち観世音菩薩（かみぜおんぼさつ）は人々を苦しから救うとされる慈悲深い仏様のこと。最上三観音第一番札所の同寺に残る納札と順札は、庶民のあついで観音信仰を物語る貴重な資料だ。

に生まれ変わるという考えに基づく崇高な修行のつづ。当時、西国三十三所には一つある向かうことは一生に一度の命懸けの行為であり、この時代の天童などの住民に観音信仰が深く浸透していたのだろう」と説明する。若松寺の御詠歌「かかる世に 生まれあ

が重要な霊場として広く認知され、あつく信仰されていたことを物語る」と話す。

若松寺は708（和銅元
年、当地を訪れた高僧・行基
（ぎょうき）が鈴の首に引か
れて山に登り、聖観音像を彫
刻して開山。860（貞観2
年には慈覺大師阿仁が山頂の



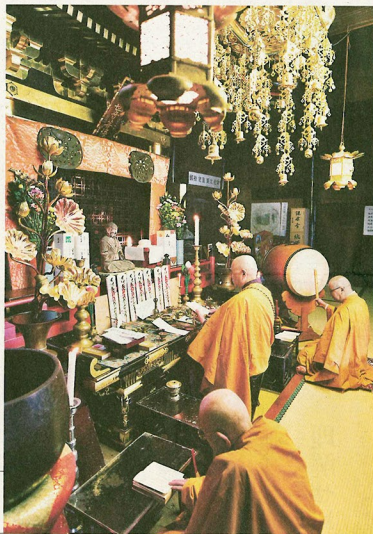
若松寺に奉納された室町時代後期の納札。順礼札の一部



若松寺の参拝時間は4～9月が午前7時～午後5時、10～3月は午前8時～午後4時。「納札及び順礼札」は非公開。「縁むすび祈

願祭」は4～12月の毎月第1日曜日の午前10時から、祈願料は1000円。駐車場あり。車は東北中央自動車道・天童ICから約20分、JR天童駅から約15分。天童市山元2205の1。電話023(653)4138。

今月18日の開山行基菩薩感謝祭で報恩法要を行う
住職ら 二若松寺観音堂



若松寺観音堂（国指定重要文化財）の前には参拝者が良縁の願いを託して飾った絵馬が多数ある